



議会だより

ここのえ



県内一周駅伝大会 県No1の応援大賞に輝いた隣保館シルバースのなでこジヤパン



同じく優秀賞に輝いた野上二丁目夢サロシ

No.97 2012.4.17発行

3月定例会

- 24年度予算 P.2
- 当初予算質疑 P.4
- 常任委員会報告・陳情 P.6
- 一般質問 5名 P.8~12
- わたしのひとこと P.13

見 留 小野 昇
川道団地 麻生 幸輝

発行／九重町議会
編集／議会広報特別委員会
平成24年4月17日
〒879-4895 大分県玖珠郡九重町大字後野上8番地の1
☎ 0973-76-3814・FAX 0973-76-3809
メールアドレス(議会事務局) gikai@town.kokonoe.lg.jp.

24年度予算総額 104億6,215万円

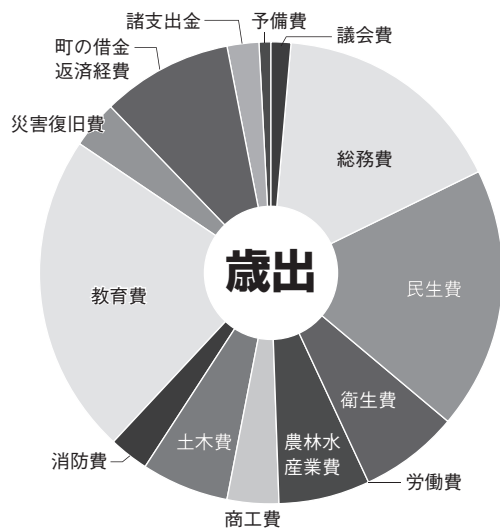
一般会計
特別会計

72億4,300万円
32億1,915万円

本定例会は3月1日から19日までの19日間開催され、議案38件（別途追加議案4件）、発議1件、陳情3件を慎重に審議しました。

[歳出]

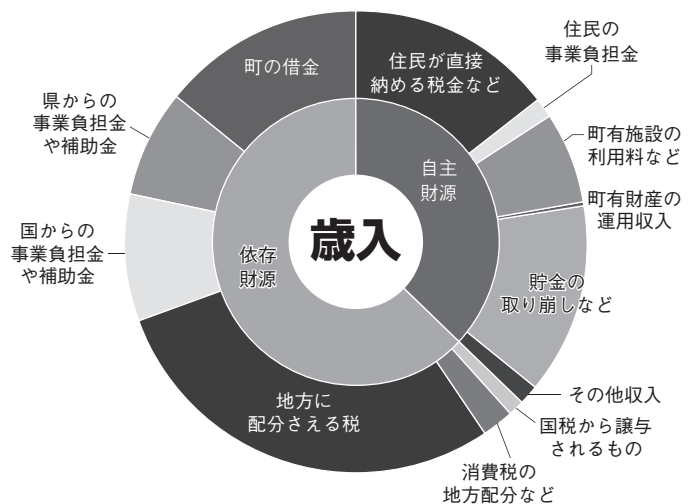
費目	金額：万円	率
議会費	1億355万円	1.4%
総務費	11億9234万円	16.5%
民生費	13億3224万円	18.4%
衛生費	4億9172万円	6.8%
労働費	125万円	0.0%
農林水産業費	4億7287万円	6.5%
商工費	2億6636万円	3.7%
土木費	4億3065万円	5.9%
消防費	2億105万円	2.8%
教育費	16億2834万円	22.5%
災害復旧費	2億5700万円	3.5%
町の借金返済経費	6億5043万円	9.0%
諸支出金	1億6730万円	2.3%
予備費	4788万円	0.7%
計	72億4300万円	100.0%



- 特徴的な事業は、総務費において空き家改修事業補助金として500万円を計上。
- 農林水産業費において集落営農組織育成強化対策事業補助金として500万円、新規就農者確保事業補助金として600万円を計上。
- 土木費において、公的賃貸住宅整備事業として3,850万円を計上。豊後中村住宅建設事業（木造2階建て2棟4戸）として5,432万円を計上。
- 教育費において統合中学校建設事業費（3階建て延床面積6,062m²）として、9億4,750万円を計上。建設は23年度から実施しており24年度で完成する。

[歳入]

費目	説明	金額：万円	率	区分	合計
町税	住民が直接集める税金など	10億6782万円	14.7%	自主財源	37.4% 27億742万円
分担負担	住民の事業負担金	8868万円	1.2%		
使用料及び手数料	町有施設の利用料など	4億6797万円	6.5%		
財産収入	町有財産の運用収入	681万円	0.1%		
繰入金	貯金の取り崩しなど	9億6789万円	13.4%		
その他収入	その他収入（諸収入、寄付金、繰越金）	1億825万円	1.5%	依存財源	62.6% 45億3558万円
地方譲与税	国税から譲与されるもの	8800万円	1.2%		
各種交付金	消費税の地方配分など	1億4480万円	2.0%		
地方交付税	地方に配分される税	21億0000万円	29.0%		
国庫支出金	国からの事業負担金や補助金	6億5146万円	9.0%		
県支出金	県からの事業負担金や補助金	5億3640万円	7.4%		
町債	町の借金	10億1493万円	14.0%		
計		72億4300万円	100.0%		



- 自主財源である町税については、町民税（個人・法人）の見込み増や前年度対比14.4%の増となっている。
- 使用料については、大吊橋の入場者数減少などから、全体として前年対比4.0%の減となっている。
- 貯金の取り崩しである繰入金については、吊橋の償還金について、これまで減債基金に積み立てていたものを充当していくことや、景気対策として繰り入れるものなどの増加などで、前年度対比58.3%の増となっている。大型事業（中村住宅、統合中学校建設）実施に伴い国庫支出金が通常の年より増加しており、同じ理由により、町債は増加している。

平成24年度九重町一般会計予算の概要

(新規事業等の抜粋)

定住促進事業

- ①公的賃貸住宅整備事業
38,500 千円
※住宅地の造成
- ②空き家改修事業補助金
5,000 千円
※購入・賃貸住宅改修補助
- ③結婚対策事業
1,220 千円
※成立謝礼・出会いの場企画補助・婚活支援
- ④新規就農者確保事業補助金
6,000 千円
※新規就農を地域とともに支援する

田舎づくり事業

- ①福岡大学連携事業
1,078 千円
※集落実態調査・地域教育力向上事業など
- ②集落営農組織育成強化対策事業
5,000 千円
※集落農業機械購入の支援
- ③合併処理浄化槽設置補助金
5,162 千円
※5人槽6基・7人槽5基を単独推進
- ④日本一の田舎づくり事業補助金
2,000 千円
※2年目～食の祭典・写真コンテストなど

安全・安心のまちづくり事業

- ①防災士養成事業・防災計画見直し事業
798 千円
※防災士の養成 20 名・計画の見直し
- ②自殺予防事業
470 千円
※予防啓発・講演会の実施
- ③消費者行政相談事業
1,981 千円
※消費者行政相談員の設置・事業の充実
- ④中学校の校外活動支援事業
2,695 千円
※部活動・その他活動における移動安全確保

新規主要事業

- ①九重ファン倶楽部運営事業（委託）
3,000 千円
※ニーズ調査・イベント企画・特典調査
- ②有害鳥獣対策事業
1,999 千円
※猟期内報奨金・ワナ、狩猟免許更新支援
- ③肉用牛繁殖経営支援事業補助金
8,750 千円
※雌牛の若返り支援事業
- ④中学校閉校事業補助金
3,000 千円
※閉校事業の支援

《その他の新規・継続事業》

環境保護協力協定中国派遣事業補助金（2,239 千円）、民間賃貸住宅家賃補助金（6,360 千円）、地域づくり推進事業補助金（3,600 千円）、児童医療費（6,100 千円）、遊具安全点検委託（326 千円）、子宮頸がんワクチン接種助成（750 千円）、園芸産地維持・拡大支援事業（400 千円）、農業体質強化基盤整備促進事業（10,060 千円）、県営地域用水環境整備事業負担金（2,500 千円）、草地畜産基盤整備事業補助金（4,759 千円）、原木椎茸種駒助成事業補助金（15,000 千円）、玖珠郡育英会補助金（5,000 千円）、生徒指導連絡協議会（中学校）補助金（400 千円）

当初予算質疑

農 林 課

Q 新規就農者確保事業補助金に対し、今後どのように進めていくのか。

A 国の方針を見極めながら、明確な対応を行う。

Q 去年に続き林業振興費の原木椎茸種駒助成事業補助金として一千五百万円計上しているが、現状どのように捉えているのか。

A 市場価格の低迷、生産者の高齢化、この様な状況下で、椎茸産地を守るための助成（一駒一円）であり、これからも椎茸生産者が生産離れしないため、また活気をもって生産に取り組んでもらうためにも助成を行う。

Q 農地費の需用費に修繕料とあるが内容は、また小水力発電の現状は。

A 修繕費（松木ダム）については、今まで県が管理していたが、今年度より町の方での管理となる。小水力発電に関しては、県の事業で平成24年度に設計し、25年度に事業実施することになってる。

商 工 観 光 課

Q 役務費の広告料・委託料の観光案内業務委託、またそれ以外でも負担金等観光業務として出されているが、効果をどのように考えているのか。

A 効果は、数値では出しにくい。今年度、マーケティング調査を行った結果があるので、その結果も踏まえ、どこにターゲットをもっていくか、又県の動きに対応しながら町独自の対応も考えて行きたい。

Q 商工振興費の、商品券事業補助金五百万円の内容は。

また、地域通貨について昨年度調査研究する様

申し上げたが、どうなっているのか。

A 商品券は、景気対策のため今年度増額した。地域通貨に関しては、調査していない。

Q 商工振興費の特産品商品化・販路開拓推進事業補助金で、新たな商品開発を行っているが、これまでの開発状況とこれから対応は。

A 開発実績では、四季サイダー・夢バーガー・夢ポーク丼などがあり、今後にも新商品の開発・販路拡大の推進を図る。



教 育 振 興 課

Q 教育振興費の、校外活動補助金に二百六十九万五千円計上しているが、

内容は。

A 昨年は9月の補正予算で計上したが、今年度は、年間の部活状況を把握し、予算決定した。

Q 教育委員の報酬、八十九万九千円計上されているが、教育委員の役割は年々大切になっており、それに見合う報酬なのか。

A 教育基本法も改正され、教育委員の権限も拡大されており、従来と違った形での取り組みも増えている。今後は、玖珠町との兼ね合いもあるが、増額の方で検討する。

Q 九重町生徒指導連絡会議補助金と、幼稚園費の遊具安全点検費の内容は。

A 九重町生徒指導連絡会議補助金は、四中学校の一年生を中心とした合宿研修・四校の交流事業として計画している。また、遊具安全点検費は、安全のための点検として、専門業者へ委託する。

社 会 教 育 課

Q 人材育成事業補助金三百十万円は、過去の経緯も含めて、今回の予算化の理由を知りたい。

A 補助金額は、前年と同額でいろいろな形で利用を呼びかけているが、利用者が少ないのが現状であるが、今後も努力したい。

Q 地区集会所改修事業補助金五百万円を計上しているが、昨年度は改修希望が大変多く、予算が足りなかったと聞く。増額してはどうか。

A 過疎計画に基づき、年次計画として五百万円計上している。要望が多ければ、補正予算等で検討する。

ふれあい生活課

Q 町内にある児童公園の管理は、どのようになっているか聞きたい。

A 児童公園として各地区に遊具を設置し管理していますが、古くなった遊具の修理の要請がなければ、原則として撤去してあります。

Q 後期高齢者医療広域連合の今後は。

A 広域連合は、国の方針が決定されていないため、未定である。



安全性を求められる遊具

追加議案報告

議案4件 発議1件

職員給与に関する 条例の一部改正

総務省の指導や現実に給与体系に改善すべき点もあるため、特例期間（4月1日から9月30日までの6ヶ月間）左表のとおり給料月額を減額するものです。

国家公務員と比較して平均月額が高くなっている概ね勤務年数

15年以上の職員	2%カット
但し、課長などの管理職	5%カット

発議

九重町議会会議規則 の一部改正

現在、九重町議会は、開かれた議会を目指し、議会改革特別委員会を中心に調査研究を行っています。その一環として、質問に対する真摯な取組と緊張感の保持を図り、討議の質を高めるために『質問に対する反問権』を執行部に付与するものです。

国定資産評価審査委員会 委員の選任に同意



熊谷 貞義さん
63才 飯田地区

選任同意とは

町長は、固定資産の評価について学識経験を有する者のうちから議会の同意を得て、選任する。（地方税法）

反問権とは

現在の会議規則では、議員の質問に対して、議場出席者は、質問に対する見解・答弁のみを行うこととなっております。反問権とは、議員の質問に対し、議場出席者は議長長の許可を受けた上で、逆に議員に対し、質問をする権利を与えるものです。この改正により、議員自らも資質の向上が求められる、緊張感の保持、討議の質を高めようとするものです。

第2回

『お出かけ議会』開催します

上記、反問権の付与も議会改革の取り組みの一環でありますが、昨年からお出掛けしている「お出掛け議会」を第二回として4月末に開催します。議会は、町民の意志を代表する機関であり、身近な存在でなければなりません。皆さんからの声を待つのではなく、議員自ら、皆さんの元へ出向き、さまざまな声を素直に聞かせて頂くために、4地区にて、「お出掛け議会」を開催しています。

お出掛け議会 日程表

26日	野上公民館 南山田公民館 7時半 開会
27日	東飯田公民館 飯田公民館 7時半 開会

担当議員の紹介

26日 野上 担当議員	26日 南山田 担当議員
27日 東飯田 担当議員	27日 飯田 担当議員
坂本 憲治 佐藤 勝憲 藤原 三治 有吉 富生 池部 俊慈 佐藤 明郎	井上 里子 江藤 一幸 小川 克巳 佐藤 博美 日野 康志 大津留 敏加 土井 眞一郎

総務建設産業常任委員会 審査報告

議案
9件

陳情
1件

各種委員会関係

議案第3号

各種委員会の委員等へ報酬及び費用弁償条例の一部改正は、「体育指導員」を「スポーツ推進員」に。また、九重町ケーブルテレビにおいて、「番組審議委員会」を「放送運営委員会」へ統合し、新たに「公的賃貸住宅事業者選定委員会」を設置し、それぞれに報酬を定めるものであり、可決しました。

議案第5号

九重ケーブルテレビネットワーク施設条例の一部改正は、改正された放送法の適用を受け、字句の修正を加えるものであり、可決しました。

高齢者見守り対策

議案第6号

九重町過疎地域自立促進計画の一部変更は、新たに高齢者見守り対策システム導入事業を追加し、情報通信基盤を活用するものです。まだ、内

容が具体化していませんが、計画を推進するうえで必要な措置と考え、可決しました。

消防団関係

議案第7号

消防団条例の一部改正は、消防学校入校及び郡外研修の費用弁償を日額5000円に増額するものであり、可決しました。

道路関係

議案第8号

道路認定は、バイパス工事の完成に伴い、県より移管を受け、「須久保花牟礼線」とするものであり、可決しました。

水道関係

議案第9号

簡易水道事業条例の一部改正は、麻生原水道組合を給水区域に入れるものであり、可決しました。

町営住宅関係

議案第10号

九重町町営住宅の設置及び管理に関する条例の一部改正は、公営住宅法が一部改正され、例外規定として障害等の状況を具体的に明記するものであり、可決されました。

議案第11号

定住促進のための民間活力による公的賃貸住宅条例の制定は、町有地を活用し民間事業者が建設した賃貸住宅を九重町が借り上げること、民間事業者が参入しやすい環境を整え、若者世帯や子育て世帯の定住促進を図るものであり、可決されました。



町水道の陳情地域

畜産関係

議案第12号

草地畜産基盤整備事業費分担金賦課徴収条例の制定は、平成24年度から4年間を目標に草地基盤の整備を、国庫事業により行うものであり、可決しました。

陳情の審査報告

陳情受付番号第1号

栗野本村区長 石井慎太郎氏外5名からの、町水道の敷設を求める陳情は、国道210号線沿いの地区の慢性的な水量不足を解消し、住宅だけでなく商業施設等の有効活用も期待されることから、採択することで意見の一致をみました。



消防特別点検の放水訓練

教育民生観光常任委員会 審査報告

議案
6件

陳情
2件

医療費関係

議案第18号、19号

九重町児童医療費助成に関する条例の廃止については、大吊橋の益金を活用し他の町村に先がけて実施した児童の医療費助成の枠を小中学生まで拡大することとなり、今回の制度改正にあわせて一元化し、議案第19号、九重町子ども医療費助成に関する条例で、小中学生の入院に係る一部自己負担金までを助成するものであり、可決しました。

議案第20号

九重町健康診査負担金徴収条例の一部改正については、22年から中学生を、23年には高校生を対象に子宮頸がん予防ワクチン接種を行っているが、ウイルスにはいろいろな型があり、ワクチンの効果を高めるために検診を勧める必要があり、無料化を行うものであり、可決しました。

議案第21号

九重町介護保険条例の

一部改正については、介護認定者数やサービスの利用者数の増加により給付費の伸びが予想されることから、所得に応じて段階補正を行うものであり、可決しました。

文化センター関係

議案第22号

九重町文化センターの設置及び管理に関する条例の一部改正については、ホールの利用料金の体系を見直すもので、現在の体系は他の多くのホールが採用している方式で、外部から誘致して開催することを前提としており、時間帯毎の設定から、一時間単位へ併せて郡外使用者の加算を行い、住民の方々が気軽に利用されるようにするものであり、可決しました。

公民館関係

議案第23号

公民館の設置及び管理に関する条例の一部改正については、公民館の運営審議会委員の委嘱の基

準に「学校教育及び社会教育の関係者、家庭教育の向上に資する活動を行う者、並びに学識経験のある者の中から」を加えてより広い範囲で人材の活用を図るものであり、可決しました。



新料金で町民に使い易く！文化センター

陳情の審査報告

陳情受付番号第2号

「町道竜門線及び龍門の滝通路のカラー舗装化を求める陳情」については、通路は里道と、一部私有地もあり、カラー舗装化する事でイメージアップや観光客の増加に繋がるとは考えにくく、総合的な計画が必要との考えから不採択としました。



多くの観光客で賑わう竜門の滝

陳情受付番号第9号

「九重グリーンパークグラウンド及び八丁原グラウンドの整備を求める陳情」については泉水特有の大量の地下水の排水工事や整備に多額の工費が予想され、新たな利用者が見込めず、町で長期計画を立て取り組むべきとの考えから不採択としました。



ラグビーの練習中の泉水グラウンド

教育振興課

統合中学校の開校に向けての準備の進捗状況と来年度の事業計画は。

来年度の開校に向けて準備委員会を設立し校歌、校章、校則、教育課程やスクールバスによる通学の方法等を検討しています。学力向上については、地域の教育力を考える「町民会議」を立ち上げて引き続き努力していきます。



700万人達成大吊橋

九重の夢 大吊橋

大吊橋の入場者数と新年度の主な事業は。
A 年間の入場者数は、70万人と予定を10万人過え、4月には700万人を達成するが、平成18年オープン以来、年々減少しており、歯止めをかけるべく各種のイベントを企画して集客に務めます。

地域経済の底上げの具体策は

基幹産業の農業を中心に



日野 康志

● 総合的な交通体系は

日野 バス路線運行補助金（赤字補てん）は、本年度も4300万円程計上しているが、赤字補てんの問題とコミバスとスクールバス（25年度予定）を含めて、総合的な交通体系を考えるべきでは。

町長 バス路線の赤字補てんは、年々増加傾向にあり、今回も春のダイヤ改正等で、赤字が減少するよう努力している。コミバスは、現在9路線運行しているが、スクールバスも含めて、効率的な運用を目指すためにも、地域公共交通協議会等で検討する。

日野 情報推進については、自主放送の制作等で内容の充実を図るということだが、情報化の推進は外部への委託を検討すべきでは。

また、企画調整課の目的は、企画立案であり実施と分ける必要があると



コミバス

考えるが。

町長 企画調整課は、まちづくりや地域づくりの企画立案等の課に、また、情報化の推進においても別組織でという意見は、24年度中に全体の組織機構を見直す中で検討する。

民間委託についても、今後の検討課題とする。

● 防災士と消防団の役割は

日野 本年度、防災士を20名程公募予定と聞きますが、防災士と消防団の役割をはっきりさせる必要があると考えるが。

● 組織で対応

町長 防災士は、NPO法人日本防災機構の民間資格、消防団員は、自治体必置の特別地方非常勤の公務員で、身分の違いがある。役目については、それぞれの組織の指揮系統の基で動くことから、問題はないと考えるが、結果的に消防団員が防災士になることも考えられるので、その点も十分認識しながら対応する。

日野 地域経済の底上げを施政方針に書かれているが、具体策は。

町長 九重町の基幹産業である農業では、高冷地や温泉等を活用し、農業と観光が一体となったものを進める。また、九重町の特産であるしいたけ農家に、昨年に引き続き1コマあたり1円の補助で1500万円の予算を計上している。

商工会でも、昨年に引き続き商品券事業の助成を行う。公共事業は、県

工事負担金も大きく減額されており、単独の予算も組みながら、少しでも景気の底上げをして行きたい。

● 定住促進は雇用対策から

日野 雇用対策は、昨年引き続き本年度もわずか3行である。定住促進が九重町で最重要課題と考えるならば、雇用対策に力を注ぐべきでは。

● 県の企業立地推進課と連携

町長 雇用状況は、企業の海外移転が進み、地方においても厳しい状況と言わざるを得ない。

今後、中学校の跡地利用も考え、光通信を活用した企業誘致を促進したい。

また、県の企業立地推進課とも連携をとり、雇用が増えるよう、努力する。

日野 第4次総合計画では、第3次でも定住1万人を謳っているが、企業誘致はもちろんだが、九重町民の起業を支援すべきでは。

町長 起業家を支援することは大切なことと考える。また、福岡ビジネス協議会との繋りを活用し、地場企業も育てて行きたいと考える。

● 地域で考える町民会議（仮称）とは

日野 地域で教育力を考える町民会議（仮称）の内容と、教育委員会との関係は。

教育長 今の学校教育の諸課題を考えた時、学校だけでなく地域や家庭等を含めた連携が必要と考え、地域ぐるみの組織で対応したいと考えている。

また、その組織から提言いただいたものを、教育委員会で反映して行く方式にしたいと考えている。

町長の去就について伺う

挑戦させて頂きたい



佐藤 博美

● 町長の去就について伺う

佐藤 町長は今年の10月に任期満了を迎えるが、日本一の田舎づくり、特に今回第四次総合計画の中で、簡素で美しい田舎づくりという形で、方向が見えつつある。全国に誇れる町づくりが今後の目指すところだと思いが、現職の町長として、今後の去就について伺いたい。

● 挑戦させて頂きたい

町長 結論から申し上げれば、次期も挑戦させて頂きたい。ご案内のとおり、地方自治体を取り巻く情勢は、自己決定・自己責任の下、地域のことは、地域で責任を負うという時代です。また、T P P 問題や人口減少など多くの課題が山積している中で、今までの経験を活かし、住民の視点で町民の皆さんとの協働で簡素で美しい田舎づくりを推進したいと考えています。

● 町独自のブランド米の推進を！

佐藤 九重町の半分以上を占める中山間地の水田農業が生き残る為には、九重町にしかない独自のブランドを作らなければ残れない。自然との共生がテーマの九重町、この田んぼにもドジョウやタニシがいる里づくりを発信しながら、最低でも30kg8千円は生産者に払えるような生産と販売を、今九重町有機農業推進協議会で行っている。町としても、日本一の田舎づくりの一環として進

● 味の良い米づくりを支援する。

町長 九重町はトキの住める地域づくりということで大体広まっているので良いアイデアだと思う。名前だけでなく、それについていく味の良いブランド米として認められるようなものを広めていき、「減農薬米（特別栽培米）」が広まっていく様に、行政としてもしっかり支援しながら努力して行かなければならない。



トキの住む町（イメージ図）

● 民間の知恵も

佐藤 24年度に恵良の町有地に民間事業者が、公的賃貸住宅を16戸建設し、20年間町が借り上げて町営住宅として運用し、その後は払下げて事業者が一般の民間アパートとして運営するものと聞か、住宅は長屋形式でなければならぬのか。

長屋形式より一戸建ての方が入居者の要望も多く建築による町内事業者の活性化にも繋がる。20年間借り上げ期間中の空

● 業者提案により検討する

室をつくらないためにも、建設資金だけでなく民間の知恵も活用出来るような対応を。

町長 16戸という数は指定したいが、決して長屋形式に限ったものではなく、事業者の提案によっては20戸ずつとか、一戸建てで16戸という提案もあるかもしれないが、町としては全くフリーで提案して頂くよりも、ある程度の方向性を見ながら選択していく。



定住促進北代住宅建設予定地

今こそ教育に力をそそげ

鋭意努力している



江藤
一幸



熱心に学ぶ 授業風景

教育委員長

青年層の人

『鋭意努力していく』

江藤 社会教育では、若者の人材育成について学校教育では、小中学校での基礎基本の定着、この対応と成果、今後の対策について将来を担う人材育成どう考えているか。

口が薄くなっていることから、「郡」や「日田玖珠」広範囲で連携、組織的な活動支援が必要だと考えている。学校教育で一番大事な基礎学力の定着、生徒指導、当たり前のことが当たり前に出来ていない反省を踏まえ、行政と現場が一体となつて、取り組んでいく。

● 戦略を示せ

江藤 定住人口1万人プロジェクトの具体的戦略戦術が見えない。将来の姿を想像し、先手の具体的な企画立案が無い。どう考えているのか。

● 具体策は今から

町長 十分な戦略が練られて無いと言われれば、そのとおりかもしれないが、今後すべての施策の中に、『定住1万人』プロジェクトを頭に置き進めて行く。

● やる気・チャレンジ支援

江藤 雇用対策は、創出に力を入れるべき。今後も続く退職者や若者・女性等を対象に起業のためのセミナー等、動機付けの事業を行なえないか。

● 起業の喚起・努力

町長 起業支援は、「商工会」が中心で行っている。企業誘致は難しいが、



集団検診のようす

● 保健師の訪問支援を

江藤 保健師の訪問看護指導が、今後ますます大事になって来る。今後どう強化、補完していくのか。

● 訪問指導を強化

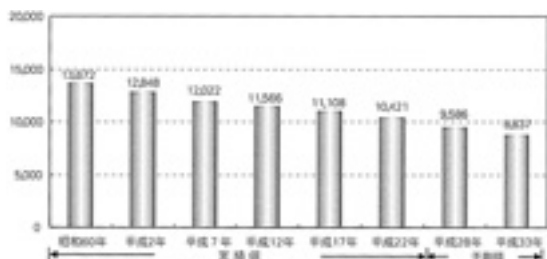
町長 時代の変化とともに、予防接種の多様化に対する対応や要援護ケアの対応が増加している。昨年度から糖尿病対策で、訪問指導・実態調査を実施し、今年度は、保健師1名増員し訪問指導を強化する。

結婚支援に民間力を！

いろんな方向からの支援を期待する



藤原 三治



九重町の人口推移表

藤原 新たに予算化された結婚報奨金と出合いの場補助金の説明と町の考えは。

町長 県下でも豊後高田市と共に他に例がない思い切った制度であり、三親等以外で、町に定住する人の結婚のお世話をされた方へ5万円を差し上げ、町内の団体で効果的な出合いの場を企画したと判断されれば1/2の限度で10万円までの補助を用意してあり、結婚についての気運が盛り上がってくる事を期待している。

藤原 予想以上に進む少子化により、40年前に比べると中学の卒業生は1/4となり、人口問題研究所の推計では、10年後の町の人口は8,837人と予想されている。一方町内の独身男女（30～50代）は、506人おられ、今回の結婚支援金制度は民間の力を借りての効果を期待しているとの方向であり、総合計画でもう少し具体的に向付を示してはどうか。

町長 町も8人のアドバイザーの力を借りながら出合いの場を設ける等の努力をしているが、個人情報等の難しい問題もあり町がリストアップしての活動はできにくい。今後はいろんな方が関わることで効果が上がると考えている。計画の中では1行だけの記載だが、いろんな方法を考え、効果的なものがあれば取り組んでいきたいと思っている。

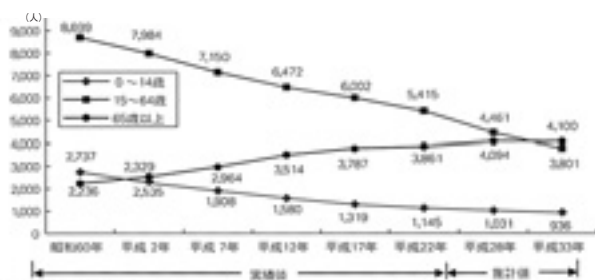
藤原 町内の65才以上の方は35%、10年後は46%とますます高齢化社会は進んで行く。元気で生き甲斐の感じられる老後を送るには、結婚のお世話や技術や経験を生かした作業や仕事、ボランティア活動等、活動の場が大切ではないか。町の施設整備の委託や経験を生かした仕事等のお世話はできないか。過去に社会教育課で人材バンク登録を行ったが、ど

高齢者の生き甲斐対策は



東飯田地区高齢者の活動風景（竹林整備）

の様に生かされているのか。老人会とも相談して外で活躍する場を作ったかどうか。



九重町の年齢層の推移表



平成23年度 寿大学卒業式

町長 老人クラブの各事業、寿大学の事業、公民館事業、軽作業生活援助事業、老人軽作業所で行う自主事業、各種ボランティア事業等を活用してほしい。人材バンク登録を100人程度（登録）しているが、各種団体が活動する時の紹介という程度に止まっている。公共施設の整備は業者に委託しており、けが等に対応できる保険制度、保障制度を確立した団体にと考えており、今後の検討課題としたい。

佐藤
明郎

演習場周辺の獣害対策

国の責任において

佐藤 演習場周辺集落の被害と場内駆除の現状は。

町長 周辺集落はモデル地区に指定され、一早く獣害棚の対策に取り組んでいます。演習場内の糞量調査を実施し、数値が非常に高く、演習場内から周辺地域へ出て荒らしている状況は想定できる。

場内の駆除については、他県の演習場にて民間の人、猟師が無断侵入し、誤って人身事故を起こす事件も発生し、防衛局も立入については非常に神経質になっている。

佐藤 防衛施設が存在自体が被害拡大のひとつの要因と考えられるが認識は。

町長 連絡会議の中で区長さん方から苦情も聞いている。西部方面隊、防衛局それから駐屯地も参加し、我々行政、区長さんも含め「日出生台演習場関係調整委員会」が開催されるので、その中で対策を要望したい。

佐藤 施設周辺の生活環境の整備に関する法律もあるが。

町長 この法律が採択されるには、かなりの理論づけが必要であり、充分な状況確認と共に関係自治体と連携し、施設局との連携を密にとる、そういった事を続けていきたい。

佐藤 町民の声を携え、国の責任において対処する様に、強い姿勢で国に、しっかりと申し上げるべきでは。

町長 「助成とか駆除ができないなら、中のものを外に出さないでくれ」そういった姿勢で望みたい。その経過は、先方も国と予算の関係、法律との関係もありますので、すぐに答えは出ないと思いますが、途中経過は報告申し上げたい。



なつかしの旧庁舎入口

町民・町の課題 雇用拡大は行政の役割

佐藤 我町プロジェクトのひとつ、定住一万人に不可欠な若者が地元に残れない現実、この原因は何か。

町長 農業をやりながら生活が厳しい現状、残りたくても生活ができなければ出て行く、農林業の新規補助金にも期待しながらも、働き場の確保が

必要。

佐藤 雇用の拡大において、個人や町民の力だけでは限界がある。行政の力で積極的に行うべき、取り組みについて現状は。

町長 小さな町だけでは太刀打ちできない面もあり、県の担当課と常に連

絡を取りながら、地元出身経営者にもお願いするなど一生懸命努めている。

佐藤 「県と常に連携を」というが、県の企業立地ガイドに九重町の記述すら無い。町民の困窮に應える姿勢が感じられない。

町長 企業立地の措置を、まだ我町はガイドに出していません。条件に差がつくようでも困りますので他市町村の状況を見ながら対応したい。

佐藤 町民に、自助、共助を言うなら、行政の役割、公助の力を町民に見える形で取り組むべきでは。

町長 早速、県に担当者を出向かせ、情報を集め、協議を行い、議会の了承も頂きながら進めていきたい。

あたしのひとこと

まち(地域)づくりの 取り組み

見 留

小野 昇さん



3年前の10月、思いがけず東飯田地区まちづくり協議会の会長を受けることになりました。

東飯田も少子高齢化で祭りの継続や水路などの共同作業が難しいなど地域の力が低下してきました。まちづくりの先進地の例を見るとイベント的なものが多く取り組みが一過性や地域が限られているなどまちづくりとしては疑問や不安を感じていました。東飯田には34行政区ありますが、すべての行政区が参加し取り組まないという意味がないと思います。これまで協議会では、地域の問題や現状を区長さんとの懇談会で知り、坂本町長にお願いした講演会で町の方針を、佐賀関への視察研修で先進地

の取り組みを学んできました。この学んだ事を踏まえて東飯田地区まちづくり計画書(素案)を策定しました。平成25年4月の本格実施を目指し、現在34行政区への説明会を行っています。元気にいつまでも、話し相手があり、見守ってくれる隣人がいる所で、明るく豊かに暮らしている地域、そんな地域づくりを東飯田のまちづくりとして計画(素案)しました。是非、あなたの地域での説明会の開催をよろしくお願いします。



花づくりを楽しむまちづくり協議会の活動

私と商工会青年部

川道 団地

麻生 幸輝さん



「まあそげー難しゅ考えんで気楽に入ってみない、ただの酒飲み

の会やき」
そう言われて私が商工会青年部に入って、はや10余年の月日が過ぎました。

現在我が青年部は59名の部員で、泉水キャンプ場の売店運営・九重四季サイダーの生産販売・また各地で行われる祭りの際の出店などを主たる活動として行っています。入会当初は、一部員として言われるままに活動に参加していましたが、今では同青年部の副部長として総体としての活動が中心となっています。

そのような活動をする中で20代前半の頃、自分がいかに自分の仕

事や趣味以外の世事に無知で無関心であったという事が確認されました。無知であった事以外に無関心であった事は、今となっては、はるかに大問題であったと思われるます。しかし、その頃に行政活動や農業事情など自分の域外の事に関心を持ちたいと思っても、そのような話を気軽に聞けるような機会はありませんでしたし、あつたとしても周知が徹底されていなくて結局その機会を逃していました。

そのような事情を現在鑑みると、これからは若い世代がより気楽に、そして具体的に様々な事に関心を持つために、異業種間による勉強会や交流会を頻繁に行い、お互いが自分達の職域の枠を越えて語り合える機会を率先して増やしていきたいと思っています。

若者の定住促進が叫ばれておりますが語り合える場が増えれば、そこに新たな絆や友情が芽生え、住んでみたいと思えるような町ができる、そう思われます。



清掃作業をする商工青年部員

思い出のアルバム No.9

傍聴へ どうぞ

次回は6月です



昭和30年代(撮影) なつかしの東飯田中学校旧校舎全景 (写真提供: 東飯田中学校)

◆ お手持ちの なつかしい写真をお貸してください

編集 後記

◆ 東日本大震災から一年が過ぎ、被災地では少しずつ復興の取り組みがなされてきていますが、今尚肉親をなくし、心の痛手から今だ立ち直れず苦しんでいる方々が、数多くいます。被災地の一日も早い復興と共に、心の痛手で苦しむ方々が、新たな希望に満ちた人生を取り戻すことが出来るよう、心から願っております。

◆ 九重町では、第4次総合計画の下、住民との協働・簡素で美しい田舎づくり(定住一万・住み続けたいまちづくり)を目ざして、スタートしました。

議会においても、町民のご意見を町政に反映出来る環境をつくるため、議会改革特別委員会を中心に積極的に議会の改造に取り組んでいるところです。で、これからも、尚一層のご意見をお聞かせ下さい。

池部 俊慈

・ 広報委員長 坂本 憲治
・ 副委員長 藤原 三治
・ 委員 日野 康志
・ 委員 大津留敏加
・ 委員 池部 俊慈
・ 委員 佐藤 明郎